

行動制限下における理科工作体験の提供と今後の展望

Provision of Scientific Workshop for Kids under the Restrictions on the Free Movement of People and Their Future Perspectives

東北工大工¹, 岩手大理工² °小野寺 敏幸¹, 阿部 貴美²

°Tohoku Inst. Tech.¹, Iwate Univ.², °Toshiyuki Onodera¹, Takami Abe²

E-mail: t_onodera@tohtech.ac.jp

1. 理科教材の無償配布に至った背景

応用物理学会東北支部では、小中学生および教員を対象とした理科教育の啓蒙活動であるリフレッシュ理科教室を毎年、東北6県で実施しており、2020年度も7月から8月にかけて全県開催を計画してきた。しかしながら、当時の国内における感染症の蔓延は悪化傾向を示しており、応用物理学会教育企画委員会では全支部に対し対面開催の無期限中止と感染リスクを回避できる非対面で実施可能な代替企画への変更を決定した（教育企画委員会オンライン会議 2020/5/8）。この決定に従い、東北支部では休校や外出自粛生活により生活の変化が乏しくなっていた小中学生に対し、可能な限り遅延なく実行可能な企画として前年度までの理科教室で使用していた図1の理科教材（単極モータ、LED 発電機）とテキストを無償提供できる体制を整え、6月1日から web 受付を開始した。



Fig.1. Contents of the workshop.

2. 企画の概要と成果

応募者が入力した google フォームの情報（希望する理科教材およびテキストの種別と数量、送付先等）を取り纏め、支部からは2回程度/週の頻度で理科教材を発送した。企画の主な広報手段は、東北支部のホームページおよび宮城県を中心として科学教育の啓蒙活動を推進している特定非営利活動法人 natural science の会員向けメールマガジンの定期配信であった。図2は、応募受付期間（6月1日から10月31日）における申込件数の推移とメールマガジンの配信日である。5ヶ月の間に299件、568セットの理科教材の提供に至った。講演では、応募者が回答したアンケートの集計結果から見出された遠隔企画に対する需要と東北支部の展開について述べる。

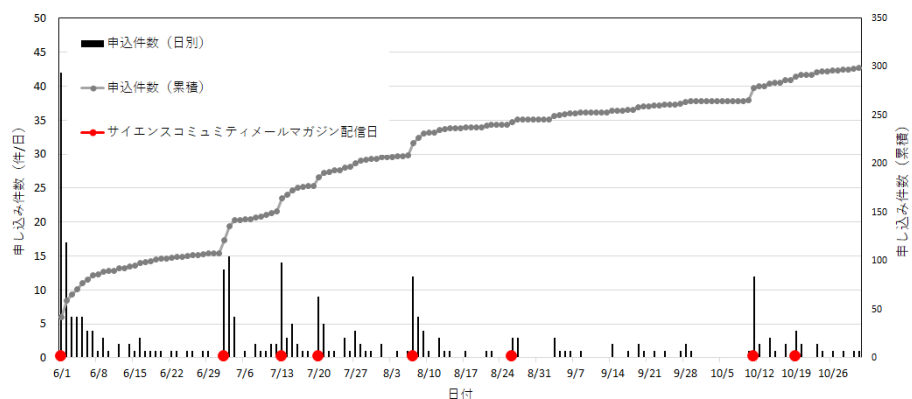


Fig.2. Changes in daily orders.